

メガネ？ 矯正手術？...その前に！ 近視・遠視・弱視・乱視「これで視力がグングン回復する」

1 このようの方は、ぜひご相談下さい。

- 学校の視力測定で0.9以下だった
- メガネ・コンタクトをはずしたい。
- パソコンを使っている。
- 近視・遠視・弱視・乱視といわれた。
- 眼精疲労に悩んでいる
- 老眼の進行を遅らせたい
- 眼科で(近視で)しばらく様子を見ようと言われた



2 当センターのトレーニング法、超音波治療法は、国立病院にて効果を実証。

当センターのリハビリ的トレーニング法は、毛様体筋の遠近調整機能を活かし、視力回復をはかる「室内凝視訓練法」。2ヶ所の国立病院による治療実験で、93%以上の回復効果が実証され、厚生省(当時)に報告されました。副作用の心配も全くなく短期間に回復可能な視力回復トレーニング法です。



多くの眼科学者たちが研究し、改良した視力回復トレーニングを当センターの代表者(仲上紀政)の原氏が主宰となり大学病院・国立伯父(仲上一助)が主宰となり2ヶ所の国立病院で治療実験を行った。93%以上の回復効果が厚生省(当時)に報告された。

3 どのくらいまで回復するの？

- 0.1以下 まずは室内で、メガネ・コンタクトが不要になるのを目標。回復の状態により目標を上方修正。
- 0.2~0.5 多くの方が、メガネ不要に。(0.8~1.0以上目標)
- 0.6~0.9 短期間で正常視力に。(1.0~1.5以上目標)
- 遠視・弱視 機能訓練で素晴らしい効果があります。

4 回復見込みチェックからアフターケアまで

①視力測定 ②矯正視力測定 ③オートレフによる屈折の度合いと進行の程度 ④視力回復の見込みの測定 ⑤体験トレーニング ⑥システム説明 ⑦個人別に回復トレーニング総合プランをたて訓練スケジュールを提案 ⑧回復後の再低下を防ぐため、定期的な視力測定等トータル的なアフターケアを行います。



5 眼科医と共同開発されたセンタートレーニング。

近視訓練・遠視訓練・弱視訓練など医療機器として、厚生省(当時)より承認を受けた機器を使用し、個々の眼の状態に応じたトレーニングを行います。

6 自宅でもトレーニングができます。

1回わずか10分のトレーニングや、超音波の投射を1日に2回~3回行います。トレーニングは幼児でもできるように工夫されています。自宅でも、都合のよい時間に視力回復トレーニングを行えます。又、視力が回復した後、再低下予防のご相談、定期測定も行ってあります。

トレーニング/(厚生労働省)医療機器製造許可番号 40B3X1000A00002
超音波治療器/(厚生労働省)医療機器承認番号 15700BZZ01973000

視力回復体験

七才になる娘が小学校の視力検査で近視と言われ、病院で精密に測定すると左右とも0.3まで視力が低下し、東京視力回復センターに入会した。

「メガネ」の話である。一般的につくられるメガネは、通常5mの距離で「二・五」が見えるメガネです。しかし、現代人は5m以上の距離をあまり見ることはなく、家の中だとせいぜい2~3m先位しか見ていません。自分の眼よりも強い度数のメガネをかける近視が悪化する事は皆さん知っています。しかし自分が、生活上必要のない強い度数のメガネを使っていることに気づいていませんか？

「メガネは見えない時だけ使う、が正しい使用法です。メガネをかけるに見えない場合には使わない。でないと本来自身の眼にそなわっている調節能力をメガネに頼って使わないため、機能が退化し、近視が進行していきます。」

両親の近視の有無は、子供の近視発症年齢や近視の進行スピードに関連しているとのこと。

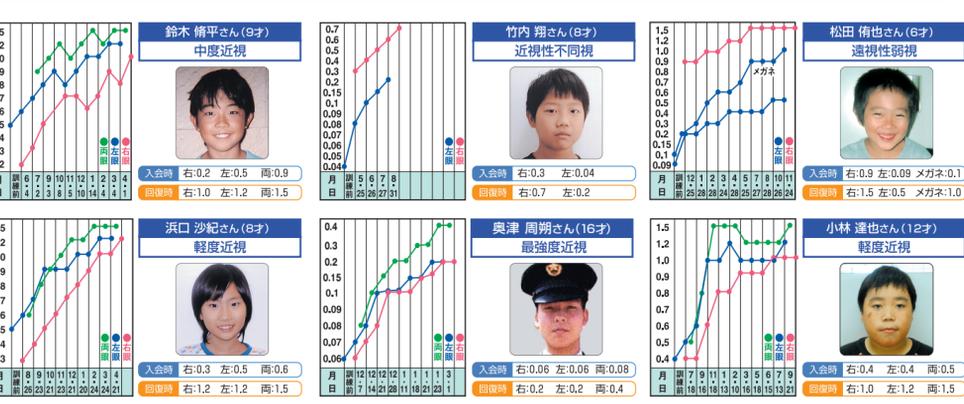
私も妻も近視でコンタクトを使用している。はじめてメガネを使ったのは中学生の頃頃だった。しかし娘は七才でその状況に追いついてしまったのだ。娘はメガネも読まないし、ゲームもない。「体質遺伝」という言葉にやや責任を感じていた。

七才で視力0.3というのはかなり好ましくない状態で、さらなる進行悪化も予測される状態だか、それでも回復は可能だという。僕は正直安心した。

そして三ヶ月が経過した。このセンターでは三才から六十代の人がトレーニングに通っている。最近の子供はほとんど、というかなかなかなくて、元気な男の子からハイロットやボクサーなどの夢を自覚する大学生、OLさんやモデルの方まで、本当に頑張っていると感じた。月に数回、片道一時間の距離は大変ではあるが、家でトレーニングを欠かさない娘はもう0.7まで回復している。

教室の後ろの方から黒板の文字が見え、以前より周りが明るく見えるようになった、と娘も喜んでる。

佐藤 和彦



このままでは...つとワラにもすがる思いで 浜田優花さんのお母さんより

小学校に入ってしばらくした頃から、時々目を細める様な仕草をするようになり、学校から視力検査結果をもらって来ました。その時は、右・左ともに0.9可とのことでしたが、すぐに眼科へ。しかし「近視ですね。0.7以下になったらメガネをつけましょう」と言われるだけでした。他にも有名な眼科にも行りましたが、どこでも同じ様に言われるだけでした。1年後には更に低下して0.3可にまでなってしまいました。このままでは...つとワラにもすがる思いで以前から折込広告などで目していた東京視力回復センターへ相談に行きました。そこで、子供は成長と共にどんどん近視が進んでいくことを知りました。早速、娘も訓練を体験させてもらい、とても楽しんで、これなら続けていけそうと言うので、入会することに。今では左0.8、右0.8、両目0.9まで回復し、これからは更に上を目指して、また、悪くならない様に、頑張っていきたくと思います。

近視矯正手術後、視力低下。そしてトレーニングで回復!! 深澤 香織さん

いつの間にかテレビの画面に出る文字が見えにくくなった事が、入会のきっかけでした。小学校高学年の頃から視力が落ちて長い間メガネとコンタクトレンズを使用していましたが、裸眼では怖くて外も歩けない状態に不便を感じ、5~6年前に近視矯正手術を受けました。その結果視力は0.9~1.0に落ちつき、すっかり安心してしまったのでした。その後、育児に追われ自分の視力に気を配る余裕などありませんでした。そんな折、新聞広告でセンターの存在を知り入会。視力は0.1と言われ大ショックでした。家での訓練は、小さい子供がいるので毎日は無理ですが、次回の運転免許証の更新を裸眼でクリア出来るよう頑張っています。

気づいた時にはもう遅い?! 「早期対策」こそ回復の近道です!

近視を分類すると、「屈折性近視」(眼球変化はなく毛様体筋の異常緊張によるもの)と「軸性近視」(眼球の形が球状から楕円に変わるもの)の2種類があります。近視の初期段階である「屈折性近視」は、早期に発見されれば、ほぼ正常視力まで回復する可能性があります。低下が始まって6ヶ月を経過すると、屈折性近視の中でも、軽度(仮性近視)から中度(真性近視)へと移行が始まり、回復がだんだん難しくなります。さらに「軸性近視」へと進行すると、網膜剥離の危険性を伴います。ただ、「軸性近視」の場合でも、正常視力までは無理としてもトレーニングにより、進行予防または室内でのメガネ不要などの効果が望めます。下記の眼底写真に見られるように、近視も虫歯と同様、放っておけば状態は悪化していきます。「視力低下=メガネ」ではなく、進行悪化する前に「早期対策」として、トレーニングによる視力回復をお薦め致します。

屈折性近視と軸性近視

水晶体が厚くふくらんだままとなり、常に網膜の手前にピントが合う。

【屈折性近視】

眼軸が伸びてしまい、網膜上で像を結ばない。

【軸性近視】

眼底写真の一例

正常な人 0.1~0.5の人(中度)

0.1以下の人(強度) 0.04以下の人(最強度)

驚異の回復実績!! マスコミも注目する!! (テレビ取材)

視力回復トレーニングによる回復者実績国内第1位!!

- 「トゥナイト」 1992年 5月 4日放送 (テレビ朝日)
- 「快傑!ドクターランド」 1993年 1月26日放送 (TBSテレビ)
- 「ルックルックこんにちは」 1994年 5月13日放送 (日本テレビ)
- 「おはようナイスディ」 1994年 7月12日放送 (フジテレビ)
- 「あなたにオンタイム」 1995年 3月14日放送 (TBSテレビ)
- 「ピーターダビシのTVタックル」 1996年 11月25日放送 (テレビ朝日)
- 「花まるマーケット」 1998年 4月 2日放送 (TBSテレビ)
- 「健康子どもっち」 1998年 5月 1日放送 (NHK衛星第2)
- 「まかせて!!エキスパ」 2001年 2月 9日放送 (フジテレビ)
- 「ためてガッテン」 2003年 4月 2日放送 (NHKテレビ)
- 「まちスタ」 2008年 9月16日放送 (千葉ケーブルテレビ)

◇93%以上の回復効果を実証! 無料電話相談受付中!!◇